

めだかの学校たより

平成 14 年 2 月 1 日
第 35 号
特別教室
ほうねん座公演号

生きる喜び、時を超え 祭りごころは同じ

松田 不秋

この年になって、二度とは巡り合えない遠く過ぎ去った頃の投影を、ありありと目の前に見るような、こんな経験が転がりこむとは思っても見なかったというのが正直な感想。お蔭で、すこぶる短い時間の中で、自らの来し方を改めて振り返るかけがえのないチャンスともなった。

一つは、何十年ぶりかで、「わらびざ」公演にめぐら滅法で取組んだ若い頃を、まるで昨日のことのようにより戻させて貰えたこと。六十年安保で荒れ狂ったその当時、やり場のない血気を、何かにぶっつけなければならぬ混濁の青春を、歌って踊って、張り裂ける和太鼓の響きにしばれ、跳躍と熱狂のルツボにどっぷりと、暫し劇人たちと躍動と陶酔を共有した一夜に、どれほど慰められ勇気付けられたことか。ともすれば方向を見失いかねない状況の中で、この企ては間違っていないかったと信じ、更に二度三度、良くもまあ懲りずにと、今更のように懐かしく思い



返されもした。

そんな回想に邪魔だてられてか、今回の榊原提案に一瞬戸惑いを覚えたのは、時代背景の違い。先が見えないという共通点があるにしても、呼びかけ一つで暗黙の熱中が結集できた時代とは、打って変わった現実に向合った実感は、私には容易ならぬ壁としか目に写らなかつたのは確か。実行委員会の場で、口説き落とす説得の手法に議論が及ぶ場面を前にして、ありありと過去の経験主義

に頼ることは禁物と思い知らされ、実はその反省が、私なりの取組みの踏み台ともなった。

こうなれば、何々のために誰々のためにとかは、もはや力の及ぶ限りでないとするれば、力みを棄てて自然体の自分で、どれだけのが出来るかを見返る、格好の機会と思うしかない。

ごく当たり前のところで、この手の催しは、何よりも自分が好きでなければ人に薦める資格はなさそうだが、同時に年を重ねた者の特典といえ、接した人の数もそのうち。まして民俗芸能の啓発を仕事のうちと自認するからには、それなりの知己の層もまた、つまりは伊達に年は取らなかつたと言う結果を、自分なりにどこかで一度は試してみたいとは思っても、いざとなると怖さが先立って手を出しあぐんでしまう。そんな時に必要な、ぐいっと背中を押し出してくれる誰かに、取って代わってくれたのが今回のほうねん座公演。私にとつては、自身を見返る二度とないチャンスに巡り合わせた意味は大きかつた。

一つやそこらの悔いも、終わったさらりと流してという転換が、とかくままならぬのも年のせい。公演を目前に控えた終盤どころで、かなりの知人と会えるある催しに助けられたが、せめてこのくらいはの腹づもりを消化し切ったところで、たちまち十三枚程が不足する皮肉な結果に慌てた。折角の獲物を取り逃がしてはと、最寄りのチケット入手先を

榊原さんに問い合わせ、プレスタワー三階のSBS窓口にあると教えられた。取り敢えずは入手先を案内してその場を取り繕ったが、果たしてそこまで足を運んでくれたかどうか。あたふたしている最中とは云え、そこですぐさま走れば良かったものをと、さして遠くない所にいなながら、つつい出洪ったことへの反省が頭を持ち上げた。

引つかかつたのは、私に心をつないでいてくれた十三人。口説き落とすもさることながら、義理と人情で迫った何人かを振り返ってみるにつけ、向こうから近寄って、親しく肩叩きしてくれた方々にこそ、お返しのお配りが必要であつた筈。なぜか大切なものをどこかに置き忘れた時のような、切なくて重たい気持ちを引きずってしまった。

全ては、自らへの戒め。それもこれもほうねん座公演取組みのお蔭。こんなことでもない限り、こんな心の揺らぎに出会うことも無かつたであらうと思えば、もはや再会は望むべくもない千載一隅のチャンスに、自らの残り火を精一杯掻き立ててみただけの甲斐があつたようだ。

これが最後と心に決めた、一人の老人の祭りは終わった。改めて一人よがりの余韻を噛み締めながら、それを一期一会の糧に、新しい年を迎えられたこの日の充実感を、今は精一杯大事にしなればと考えている。何よりのプレゼントを与えてくれた、「メダカの学校」よ有難う。ありがと。



実行委員の皆さん、集まってください。
注意事項を説明します。

×× ××

はじめてのこと、神妙に、緊張気味～
ちょっと不安ものぞいて

らっしゃい!! ありがとう!
れアンケート用紙。あとで書いてネ!!



ーン。会場責任者石野親分の
厳しい顔・ステキ!

お客さん来てくれるかなア。
なんと子分たちの不安そうな顔



◇笑顔をとくさんありがとう

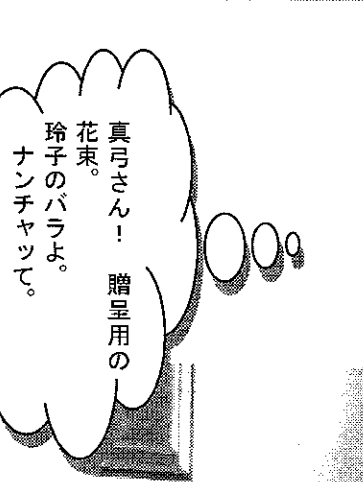
まず成功!よかったね。拍手で終わった反省会から帰宅したのは私を待っていてくれたのは、大きな茶封筒の郵便物でした。差し先は、清明寮!子どもさんたちのとりどりの色紙が、元氣いっぱいにおどっている色紙と、丁寧なお手紙がしたためられてありました。胸がほわっと温かくなりました。思い出しますと、実行委員で役割分担の際、いきなり招待班を仰せつかり、正直言いまして困惑の二文字で、どうしようもないのは高校時代、一方的に出したの細かい赤い糸の結んでいた細い赤い糸の



待つ間、ロビーでの会話
楽しい、もうすぐ始まり
ます。



いらっしや
これアンケ-



真弓さん！ 贈呈用の
花束。
玲子のバラよ。
ナンチャッて。



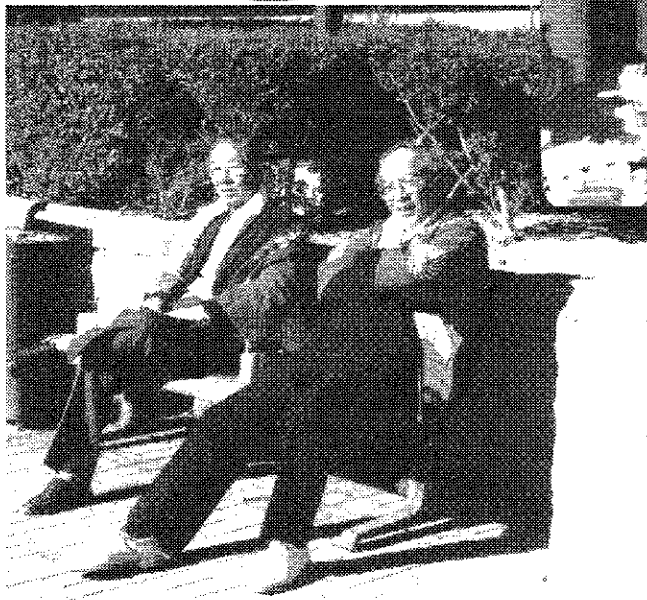
控室で本番前の腹ごしらえ。
「オー、このおいなりさん、ウマー。」「それ
はそうよ。私のところのおいなりさん。」と
渡辺給食チーフ。



困惑の二文字でした。どうしようも
ない。出たのは高校時代、ふと思
い、結んできた細かい赤い糸の
先、清明寮の子どもの赤い糸の
笑顔を思い出した。しかし、空白の
十年。一大決心で受話器をと
りました。そして始まりました。
公演当日、二十数名の小学生が
職員の方と共に来てくれました。
な。演者と客席の少年の屈託の
包みかけ合いです。会場は笑い
気のない種を頂いたようです。
水村 春江 元



これ、いかがですか！
ゆべし、ゆずみそ、ガラ紡
タワシ。amiもあります。



ありがとう！！ さようなら

こんなのんびりした日もいいね
え……

感じたリアル

★感じました！ほうねん座公演。
♪ピーヒャラドンドン…どこからともなく
聞こえてくる祭囃子。すこくよかったです
ねえ。仕事を忘れて！？舞台上に魅入ってし
まいました。「糸乱れず」とはまさにこの事、
同じリズム、タイミングの太鼓の音色が重なり
あって深みとなって体に入ってくる。熱く
こみ上げてくるものがありました。チケット
を売る際、全く知らない名前、内容。ただ一
点自分が楽しそうだなと感じた事だけを信じ、
周りに声を掛ける。正直少しウシロメタク
なった事があるのも事実、ですがそんなこと
もスッキリ忘れさせてくれる見事な舞台でし
た。

いろんなことがありましたが、自分個人的
には今回のこの“ほうねん座”をキッカケに
より多くの方とより一歩進んで仲に入る事が
出来たと感じます。何よりの財産を得た思い
です。大切にしていきたいです。

浜松市・藤田吉恭メダカ

★ほうねん座公演の会計係をやりました！
柄になく会計係とのことだったが、やった
ことは当日の現金をしっかりと抱えていただ
けのような気がします。当初から「もし不足
がでたら」という心配について副実行委員長
の藤田潤吉メダカ、佐野文子メダカが機会あ
ることに発言して下さり会計係としては力づ
けられました。公演当日の計算では、藤田潤
吉、藤田久枝、藤田吉恭の各メダカさんが一
緒にやってくれ、帳尻がピッタリ合った時は
「やったぜ！」と喜び合いました。おさまか
な収支計算の結果「トントンで良かった」と分
かった時、バンザイ！！をやってしまいました
た。バラさんから「先にパーティー会場の準
備に行っている人に知らせてやってく
れ！！」（会費を祝儀に名称変更）と言われ、
知らせました。打ち上げパーティーは大いに
盛り上がりました。元気印の旗の下、良い経
験となりました。皆さま有難う！！

豊田町・八木正子メダカ